

証 詞

本日、映像配信という形で卒業生の門出を祝って下さった先生方や職員の方々に、卒業生一同を代表して心よりお礼申し上げます。

日本全国、さらに全世界において、新型コロナウイルスに関する問題が一刻も早く収束することを心より願います。

入学してから早くも 4 年が経とうとしています。私の小さなころからの将来の夢は、家業である畑作専業農家を継ぐことでした。そのため、農学を専門的かつ実践的に学ぶことを期待し、2016 年春に酪農学園大学に入学しました。

実際は、期待とは少し違う形で大学生活は始まりました。大学 1 年次は基礎・教養科目の比重が高く、見えない未来に漠然とした不安と焦りも生じました。そんな中、当時の担任であった亀岡先生から植物に関する本を勧められました。一冊を読み進める中で、本から得られるものが非常に多いことに驚きと新鮮さを覚え、もともと興味があった作物栽培や土壌分野のほか、新たに植物生理学にも興味をもつきっかけにもなりました。読書は選択する本の分野もそれにかかる時間も自分次第であり、この読書体験をきっかけに、大学生だからこそ時間を自己管理し、興味関心を持つ分野について自ら能動的に勉強しよう、という意識を持ち始めました。

勉強を進め、新たな知識を得るにつれ、実家以外の農家や自分で栽培したことの無い作物を自分の目で見て体験したいという気持ちが生まれ、2年次には学外農場実習で3軒の農家さんに計40日間ほど住み込み実習でお世話になりました。様々な経営体系や作物栽培に携わらせていただき、大変勉強になりました。本を読んで学んだことと実際の現場を見比べることが面白く、また実際に体験したからこそ、新しく知りたいと思えることが格段に増えました。

3年次には満を持して農学コースを選択しました。農学分野の授業や実習では、農学を専門的かつ実践的に学ぶことを積極的に楽しみました。栽培学研究室では4年生の先輩とペアを組みバレイショ栽培試験を実施したり、研究室で様々な場所へ研修に行ったり、14日間和歌山県の果樹園農家さんで実習をしたり、初めて学会に聴講参加したり、まさに座学と実習とが両立した充実の1年間となりました。大学内外で、知的好奇心を共有することの喜びを覚えてからは、学ぶことがより楽しくなりました。

特に、研究室配属が決まって間もない4月にイネについて質問したときに、4年生の先輩が「よく観察しているね。いい質問だね」と言い、質問に対してわかりやすい解説をしてくれた際には、「年齢も1つしか変わらないのに！先輩ってすごい！大学って素晴らしい！」と感動したのを覚えています。

これらの経験から、人の知的好奇心を尊重しつつ、さらに詳しい解説ができることのかっこよさや、新たな発見をわかりやすく人へ伝えることの大切さ面白さを学びました。

4年次には、ついに大学生活の集大成といえる卒業研究が始まりました。私は、水稻の根系に着目し、節水と収量の両立を目指した間断灌水法の確立をテーマに、栽培研究に取り組みました。研究計画を組み、4月にイネを播種してから2月に卒業論文を提出するまでの10か月間は大いに迷い、悩みました。しかし、栽培学研究室の仲間たちと共に、なにより亀岡先生のもとで、卒業研究に取り組むことができ、本当に良かったと思っています。卒業研究のほかにも2度の学会ポスター発表、他研究機関や農家さんの見学訪問、他作物の栽培試験など、まさに専門分野に特化した、大変に忙しく、そして学びに溢れる1年間となりました。研究活動や学会を通じて出会った他大学・研究機関の先生方・先輩方には研究交流だけでなく、精神面でも大いに支えられました。また、2019年11月の学会エクスカージョンで訪問した植物園においては、まさに歩く植物図鑑といえる先生から敏速で面白い解説をしていただき、ここにきて未だかつてない衝撃を受けました。私も歩く植物図鑑を目指して植物図鑑を眺めています。

こうして証詞を書くにあたって大学生活を振り返ると、本当に多くの人と出会い、お世話になってきたことを改めて実感します。

酪農学園大学での4年間の学生生活を通じて、学ぶことの面白さを知り、目標にしたいと思える多くの人たちに出会い、代えがたい財産を得ることができました。

卒業後は、北海道十勝で家業の畑作専業農家を継ぎます。再来年度からは、父から経営を委譲してもらえるとのことですので、若さを免罪符に様々なことに挑戦していきたいと考えています。また、大学生活で学んだことを活かすことができるように、今後も勉強を続けていきたいと思えます。

最後になりましたが、未熟な私たちを温かく見守り、ご指導くださった諸先生方に心よりお礼申し上げます。また、大学生活を支え、また大学卒業とともに実家で働くことを許してくれた父と母に感謝します。酪農学園大学の一層のご発展を祈願しますとともに、後輩の皆様方の益々のご活躍を願ひまして証詞とさせていただきます。

2020年3月19日

農食環境学群循環農学類

吉野 ひなき